

2011年 5月 26日

# 新型安全帯に切り替え

## NIC 震災機に防災体制見直し

エヌアイケミカル（NIC、杵多稔社長、千葉市美浜区）は、東日本大震災を機に防災体制を見直し、安全対策を強化している。震災による需要増に配慮するため、「マルチワークステーション」のラインを今月中に増設。ローリー積み込み

場の安全帯も、より安全なパラシュートタイプに切り替えていく。

3月11日の震災では、タックターミナル構内の設備損傷はゼロで、危険物倉庫ではドラム1つ落ちなかった。翌朝には棧橋での荷役、ローリー出荷を実施できた

ことが荷主に評価され、「この5年間で、旧法タンクのうち大型の6基を建て替えており、設備の老朽化対策が完了していたことが幸いだった」（杵多社長）。震災後、ISOタンクコンテナやドラムでの小ロット輸入が増えていることから、荷姿変更や積み替え可

能な施設、マルチワークステーション（4類1石から）を従来の4ラインからさらに2ライン新設。タンクへの引き合いも多いが、空気が少ないため、既存顧客の荷物を集約するなどしてスポット需要への対応も急ぐ。

防災体制の見直しでは、人命救助の観点から、津波が来た場合の避難手段として従業員全員分の自転車を確保。万一、「陸の孤島」になった場合の非常食も用意した。震災直後、通勤用

車両のガソリン不足に見舞われた反省から、危険物倉庫でガソリン（200リ以内）をドラムで保管。来年中に、省エネ対策を盛り込んだ新事務所を完成させる。

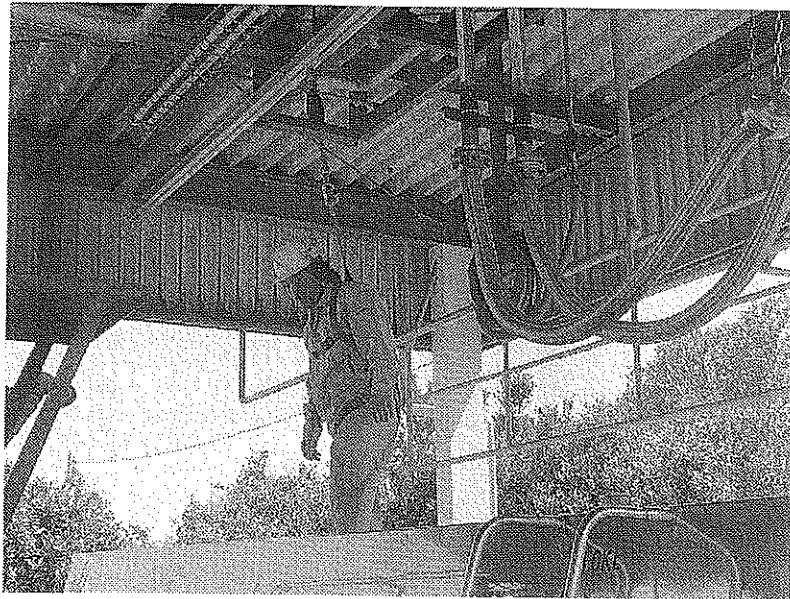
2月から順次導入していた新型の安全帯は、腰に負担が少ない、装着しやすいパラシュートタイプ。全体を支えるため安全性が高く、アルミ製でさびに強

い。震災では停止したローリーが大きく揺れると分かったため、新型安全帯の全面導入を進め、ローリーを手配するメーカーの協力も得ながら、運転者に使用徹底を求めている。

なお、6月には、ホームページ（HP）をリニューアルする予定で、顧客から問い合わせが多いマルチステーションのサービス内容

や防災訓練の様子なども随時掲載する。

（石井 麻里）



運転者に安全帯の使用徹底を求める